

演題

超音波画像にて悪性所見が示唆された

甲状腺腺腫様甲状腺腫の 1 例

同心会古賀総合病院

高橋 敏裕 新原 康雄

遊畑 理恵 栗林 忠信

患者：52 才、男性。

主訴：咳

現病歴：平成 18 年 1 月に咳を主訴に近医を受診し、胸部 CT にて左下肺野に 3mm 大の結節影を認め、同時に右甲状腺腫が指摘された。

2 月 23 日精査目的のため当院内科を受診され、超音波検査にて、右葉下極側に 21×20×18mm 大の境界明瞭、辺縁平滑な充実性腫瘤を認めた。形状不整、内部に音響陰影を伴う粗大な石灰化像を有し、カラードプラーを実施したところ、腫瘤内は hyper vascular を呈していたことより強く悪性が示唆された。

血液検査では血中サイログロブリン 59.9ng/ml と軽度上昇していた。数回にわたり細胞診が実施されたが、いずれも陰性であった。

今回、超音波にて乳頭癌を強く疑い、腺腫様甲状腺腫との鑑別が困難だった症例を経験したので報告する。